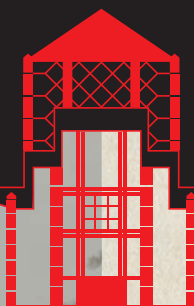


YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

横浜市歴史博物館



News No. 57
2024.8

特別展

寶林寺 東輝庵展

横浜の禪
—近世禪林のルーツ—

企画展 ペリー横浜上陸 170 年

サムライ Meets ペリー With 黒船

—海を守った武士たち—

歴史未来フェス 報告

歴博をもっと楽しもう!

ミュージアムショップより新商品のお知らせ
はらでぐちくんといっしょ

館長コラム vol.6

◆ペリー来航と横浜

嘉永六年（一八五三）六月三日、アメリカ東インド艦隊司令長官マシュー・カルブレイス・ペリー率いる四隻の艦隊が浦賀沖（横須賀市）に來航しました。ペリーは、開国を要求する大統領フィルモアの国書を渡し、來春の再来航を告げます。

翌年、予告通り江戸湾に姿を現したペリー艦隊は、正月十六日に柴村沖（横浜市金沢区）に碇を下しました。日米会談の応接地をどこにするのかをめぐっては、浦賀を主張する日本側と浦賀よりも江戸に近い場所を望むアメリカ側との間で交渉が難航しましたが、最終的に日本側が江戸に近い横浜村を提案したことで落着きました。

二月十日にペリーが横浜村に上陸し、数度の日米会談を経て、三月三日には日米和親条約が締結されました。

日本の歴史の中でも「ペリー来航」はもともとな有名な出来事の一つではないでしょうか。小学生の中でも織田信長・豊臣秀吉・徳川家康に並んでペリーは知られているようです。ペリー来航についてはこれまでも様々な博物館で展覧会が開催されてきました。特に、横浜の歴史にとっては、その後の横浜開港につながる前史としてペリー来航、そしてペリーの横浜上陸はとても重要な出来事です。

◆横浜地域を守った武士たち

ところで、皆さんはペリー来航に際して、警備のために多くの武士が横浜地域にやってきていたことをご存知でしょうか。特に、二度目のペリー来航の際には、金沢は武州金沢藩（横浜市）、本牧は鳥取藩（鳥取県）、横浜は小倉藩（福岡県）と松代藩（長野県）が警備を担当しました。これらの藩は、警備のために多くの家臣を現場に派遣しました。

例えば、本牧を守った鳥取藩（支藩等含め）は総勢二千人近くの家臣を本牧に派遣したという記録が残されています。彼らは村内の八王子権現から十二天社の間にかけて台場を築き警備をおこないました。数か月の間ですが、多くの武士たちが本牧に滞在したことになります。彼らは、ペリー艦隊と対峙しながら、自らの体験を日記や手紙に記しました。

こうした日記資料は藩の公的な記録ばかりではなく、警備にあたった武士一人一人が私的に書き記したものが沢山あったと思われる。現在に伝存していない、あるいはまだ発見されていないだけで、警備にあたっていた多くの武士たちが日記や手紙を書いていたと考えられます。

今回の展示では、こうしたペリー来航の際に、現場で警備を担った武士たちの日記や手紙等の資料をもとにペリー来航の新たな一面を紹介しています。

◆武士たちがみたペリー来航

本展示では、主に四人の武士を取り上げ、彼らが記した日記や手紙を中心に、現場の武士目線のペリー来航の様子を紹介しています。具体的には、①金沢藩士・萩原唯右衛門の日記二冊、②鳥取藩士・角田安処の日記一冊、③小倉藩士・桐原鳳卿の日記二冊、④松代藩士・佐久間象山が家族に宛てて書いた手紙二通です。佐久間象山は幕末の学者・思想家として著名ですが、ほかの三人は一般的に知られていない武士たちを取り上げています。

とりわけ、本展示では、皆さんが武士一人一人の目線に立つてご覧いただけるように、章や節ごとの解説文とは別に、武士の語り口調で解説をおこなうパネルも展示しています。現場で警備にあたった武士たちの気持ちになりながらご覧いただけますとより一層楽しめるのではないかと思います。

当時の日本にとってペリー来航とは未曾有の重大事件でした。警備にあたった武士たちの中には、アメリカと戦争になるかもしれないという緊張感の中で警備にあたったものや、外国人や蒸気船を初めとした西洋の科学技術に強い関心を抱くものもありました。

本展示を通じて、日本の歴史の転換期にあつて、最前線でペリー艦隊と対峙していた彼らの息づかいを日記や手紙から感じていただき、且つそこからみえる知られざるペリー来航の一面を知っていただければ幸いです。

（文 仲泉剛）

サムライがみたペリー来航



米船渡来 旧諸藩士固之図
横浜開港資料館所蔵・写真提供



「横浜日記」 横浜応接所と小倉藩・松代藩陣營の図 当館所蔵



ペリー提督・横浜上陸の図 横浜開港資料館所蔵・写真提供

企画展 ペリー横浜上陸 170 年

サムライ Meets
ペリー With 黒船

—海を守った武士たち—

令和6年 7/13(土)→9/1(日)

休館日：毎週月曜日（ただし祝日の場合は翌日休館）

宝林寺 東輝庵展によせて

横浜市南区に、「宝林寺」という、近世の禅宗においてとても重要なお寺があることをご存じでしょうか。現在のＪＲ保土ヶ谷駅を東海道沿いに井土ヶ谷方面へ進むと東海道五十三次のひとつ保土ヶ谷宿本陣跡があります。その南側、小高い丘陵地を隔てた場所に現在の宝林寺は位置します。江戸時代後期、そこにはかつて、「東輝庵」という禅僧たちが修行のために集った禅宗道場がありました。東輝庵は、延享年間（二七四四～四八）頃、高乾院（福島県三春町）の月船禅慧という禅僧が創建し、月船のもとには近世禅林を牽引した名だたる禅僧たちが綺羅星のごとく集いました。

そして、本年九月、当館で開催する特別展「宝林寺 東輝庵展 横浜の禅―近世禅林のルーツ」では、横浜の禅林文化の一端を禅画、墨蹟、頂相絵画とともに展示します。ここでは簡単ですが宝林寺の歴史の一部を紹介します。

宝林寺と東輝庵は別のものであり、同じものでもあるという、その歴史はやや複雑です。宝林寺は鎌倉の臨済宗円覚寺派の末寺で、現在の場所から南側にある春日神社の近くに位置し、その歴史をさかのぼると開山は大雅省音（円覚寺一〇二世）で、その示寂が応永二十六年（一四一九）であることから、十五世紀頃までには開創されたと考えられています。寛永十年（一六三三）の円覚寺末寺帳には、まだ宝地庵と称され、本庵は円覚寺の龍隠庵で、歴代の住職は円覚寺の住持を務める者もあり、宝林寺を隠居寺としました。五世梅州省因（永禄七年〔一五六四〕寂）のち、一時期無住になり寺院は荒廃するものの、永田村の名主を世襲的に務めた、服部家の祖玄庵道甫の子、玖盤省珍（寛永三年〔一六二六〕寂）が開基して堂宇を立て直します。

寺伝には「服部道甫居士深ク佛ヲ信シ其子ヲメ雅髪シ玖盤和尚ト稱シ、



宝林寺山門



市指定 誠拙周樗 画賛《指月布袋図》
栄区・玉泉寺所蔵

この地の文化を「武溪文化」といい近接の保土ヶ谷宿周辺をふくめた文化・文芸を牽引する場ともなっています。展覧会では、横浜・永田の地に華開いた禅文化にふれるとともに近世禅林の源流を紹介します。（文 吉井大門）

一人でした。展覧会では、東輝庵に集った禅僧たちとその系譜の名僧たちが描いた禅画などを紹介します。禅画とはおもに近世以降の禅僧によって描かれた絵画作品を指し、中世の禅僧によって描かれたものは主に「水墨画」、特に禅僧が描いたものに「禅林絵画」や「禅宗絵画」という言葉が使われます。禅画は、法会や、布教のため、また悟りの証として制作されました。描かれた画題は、達磨や釈迦、観音、風景や動植物、布袋など多様なものになります。

また、永田村は東輝庵を中心に地域との交流が生まれ、文化的土壌が醸成されます。そこに一役買ったのが永田村の名主服部家の季章と義兄弟であった軽部長堅でした。永田の地は月船の号にちなみ「武溪」と呼ばれ、

當ノ寺第六世ノ祖トナル、玖盤和尚諸堂ヲ改ノ築シ寺政ヲ復興シ布教濟度ニ努ム、九世三甫和尚ニ至リ更ニ堂宇ヲ改修ス」とありこの頃宝林寺と改められたと考えられます。それは、円覚寺末寺帳に延宝二年（一六七四）には宝林寺となっており、また九世三甫省已は元禄六年（一六九三）示寂であり、前代の八世陽嶽省寅は慶安三年（一六五〇）の示寂であることから、おそらくは三甫省已の世代に「堂宇ヲ改修ス」とともに、この時期寶林寺となったと思われるます。

その後、延享元年（一七四四）頃、先に述べた月船が東輝庵を建立し、東輝庵主が宝林寺を兼住して以降その世代を務めていることとなります。

東輝庵には、月船の指導を受けるため、全国から修行僧たちが参禅します。月船から白隠のもとへ投じた峨山慈棹、円覚寺中興の祖といわれる誠拙周樗、この誠拙の系統の禅が鎌倉円覚寺で根付き発展します。また近年では「かわいい禅画」としてユーモアあふれる柔らかいタッチの絵が紹介される仙厓義梵も若い頃、東輝庵で修行をし



市指定 誠拙周樗 画賛《富嶽図》 南区・宝林寺所蔵

特別展
「宝林寺 東輝庵展
横浜の禅―近世禅林のルーツ」
令和6年9月14日(土)～11月10日(日)

※会期中一部展示替えを行います
(前期～10月14日(月)、後期 10月16日(水)～)

【休館日】
毎週月曜日(ただし9月16日、9月23日、10月14日、11月4日は開館)、
9月17日(火)、9月24日(火)、10月15日(火)、11月5日(火)

ARCHAEOLOGY

君も今日から考古学者！

— 横浜発掘物語 2024 —

振り返ってみよう！

みんなが協力してくれたおかげで、立派な地層ができたツクルよ！

発掘調査の体験、盛況だったね。楽しかった！

体験学習室では縄文土器のかげらや石器を手にとってみることもできたわ。

日本を飛び出してアンデスの笛吹きボトルの展示もやっていたね。

レックル

ジョー君

やよいちゃん

大塚君

俺たちのことをミュージカルにしてもらったよな！

竪穴住居のモンブラン、おいしかったわ。



みんなが楽しんでくれて何よりです。多くの人に考古学の楽しさを知ってもらえるようにこれからも頑張っていきます。

もっともっと、いろいろなことをして、みんなで「こうがく」をひろめていくのだ！

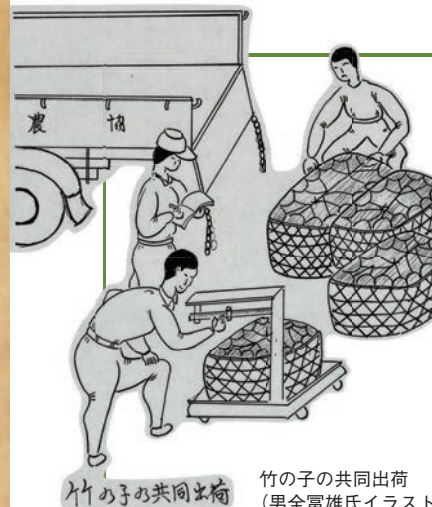
かんちょう

キャラクターデザイン：やなぎ堂



『君も今日から考古学者！—横浜発掘物語 2024—』およそ70日間のロングランを無事終えることができました。2023年開催時よりも体験できるコンテンツを増やしてみたいけれど、みんなはどうだったかな？

学芸員Y



竹の子の共同出荷
(男全富雄氏イラストのうち) 当館所蔵

なかでも興味深いのは、都筑郡農会や下部組織である各村農会で、農事講習会や品評会を盛んに行い、地域の特産品ができていったことです。農会とは、もともと地域の篤農家を中心に行いました。

明治二十二年（一八八九）、市制・町村制の施行によって江戸時代までの村々を統合した新しい村が全国に創設されました。青葉・都筑両区域には中川村・都田村・山内村・田奈村・中里村の五ヶ村が誕生し、明治政府はこの村々を単位として戸籍作成や地租改正・伝染病の予防や対処・学校建設など、近代の改革や事業を実施していききました。

史料

令和六年（二〇二四）
秋、青葉・都筑両区の区制三十年を記念して、両区域のこれまでの歴史や暮らしを紹介する展覧会を開催します。

青葉区都筑区区制30周年記念展示

「丘のよこはま—近代の村の歴史と暮らし—」によせて

われていた農業技術の促進やその周知を行う団体活動を公的に組織化したもので、例えば当時の主要産業であった養蚕や、ビール製造のためのビール麦栽培などの技術を広め、また従来の作物の品種改良や量産化の方法などを指導していきました。青葉・都筑両区域の村々は、東京や横浜などの都市部近郊という地利を生かして、丘陵上の畑地でネギ・茄子・小松菜などの野菜、梨や苺・スイカなどの果実を栽培していました。なかでもタケノコ栽培は明治期後半頃から有名になり、当初は山田・茅ヶ崎で作られていたものが、次第に中川村一帯に広がって、「中川のタケノコ」として流通していったといえます。

やがて昭和十四年（一九三九）、横浜市の第六次市域拡張に際して村々は市への編入を希望し、都筑郡下の一町六ヶ村がまとまって神奈川県下の一部とともに港北区が誕生します。その三十年後の昭和四十四年（一九六九）には港北区が緑区と港北区に分割され、さらに二十五年後の平成六年（一九九四）には港北区と緑区が港北・緑・青葉・都筑の四区に分区されました。明治期に創設した村々は港北区誕生

【会期】令和6年11月23日（土祝）～12月15日（日）

* 休館日 毎週月曜日

により消滅し、加えて昭和三十年代の鉄道敷設に伴う多摩田園都市開発や、昭和四十年代の港北ニュータウン開発によって、地域の地形や暮らしは急速に変化してきました。しかし中川や都田、山内といったかつての村名は、現在でも小・中学校名や駅名、地区センター名などに残って、横浜近代の村々のなごりを伝えています。

（文 阿諏訪青美）



青葉・都筑両区域にあった近代の村
（「神奈川県管内之図」（横浜開港資料館所蔵）に加筆して作成）

★大塚・歳勝土遺跡公園



センター北エリアでは毎月おなじみの「みなきたマルシェ」が遺跡公園にやってきました！土器の写真が飛び出るARスタンプラリーも大好評でした。



★工房 地元企業や団体による特色あるワークショップを開催しました。

みんなのバザール [25日]

広い工房で、子ども達がじっくり作品づくりに熱中していた姿が印象的でした



バックづくりや、型染めのワークショップを開催

メイドインつづき [26日]



電子工作はんだづけで手のひらサイズのゲーム機を作成

静かな環境で！じっくりワークショップを行うことができました。ゲーム機づくりというなかなかできないプログラム、参加者もスタッフも存分に楽しむことができました

★都筑民家園

古民家を舞台に、しの笛コンサート、着物・竹細工体験が行われました

実行委員会のメンバーとも楽しく準備しました！来年の開催もお楽しみに。



着物体験

隣のお部屋で篠笛が聞こえる中、ノスタルジックな空気感にお越しいただきました方だけでなく私たちも心地よい気持ちになれました。



竹細工体験



交流のようす

民家園竹林クラブのメンバーも着物楽しみました。着物同好会と交流できました。

★講堂

ダンスコンテスト、音楽パフォーマンス、ミュージカルなど、普段は博物館でなかなか見られない、迫力あるパフォーマンスが繰り広げられました！

第1回 歴博ダンスコンテスト [25日]

他のグループたちがめっちゃめっちゃ上手くて勝てるか心配だったけど、最終的に良い結果に終わってよかった。めっちゃ楽しかった！

楽しかったし、応援に来てくれた人たちの期待に応えられて良かった。学校の先生や友達が見に来てくれて、それで優勝出来て。ダンスを続けたい意欲が増した。



優勝チーム「Rings from GDS」の3人。土器トロフィーを手にピース！

優勝の結果は出たけど、もっと出来たはず。プロを目指すならまだまだだった。プロになるために天狗にならずに頑張る。

「ダンスコンテスト」と聞くと敷居が高く感じていましたが、客席もスタッフの皆さんもとても暖かい雰囲気でした。また、他チームの幅広い年齢層による幅広いジャンルのダンスも刺激的でした。ステージからも客席からも楽しめるイベントなので、来年もまたは是非開催してほしいです！

音楽パフォーマンス [26日]

いつもは生声で歌っている私達なので、マイクに声を入れる事がなかなか難しく戸惑うところもありましたが、音響さんに最大限のフォローをしていただき、楽しく歌わせて頂きました。他の出演者の発表も刺激になり、是非来年も機会があれば参加させていただきたいと考えています。



出演者「ヴォーカル アンサンブル はな＊うた」のパフォーマンス

ミュージカル「君も今日から考古学者！」 [26日]



毎年恒例の企画展「君も今日から考古学者！」とのコラボ企画です。展示のキャラクターたちが実写化して歌ったり踊ったり...パワフルなステージでした！



～想いをつなぐ情熱タイムマシーン～

歴史未来フェス
History Future Festival

2024 5/25 & 5/26

令和6年(2024)5月25日(土)～26日(日)に第2回「歴史未来フェス」を開催しました。

歴史未来フェスは、横浜市歴史博物館を舞台に、博物館のある都筑区を活動拠点とするみなさんと一緒につくったイベントです。

第2回目の今年は、大塚・歳勝土遺跡公園までイベントエリアを拡大し、50を超える個人・団体のみなさんが出展者として参加しました。

当日のようすの一部をご紹介します。



レキハク ファーム通信 8

タテからヨコへ…検証も大事

民俗担当です（^o^） レキハクファーム通信 8号です。

昨年、スタート以来の初の大収穫を迎え、このプロジェクトの連載もいよいよ終了か!?というところでしたが、今年からは部活的な立ち位置で、のんびりと陸稲栽培を再スタートしましたので、その報告をお届けしたいと思います。

冬の寒起こしをはじめとする土づくりの重要性を身に染みて理解した昨年ですが、この冬から春にかけてもしっかりと取り組みました。今年のチャレンジとしては、昨年認識した、畑の手前と奥で成長の度合いが大きく変わる点をもう一度確認し、肥料を調整しながら畑全体からバランスよく収穫するというにしました。

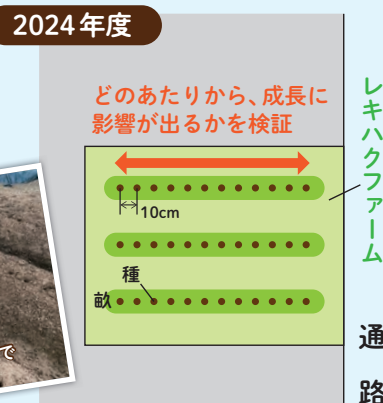
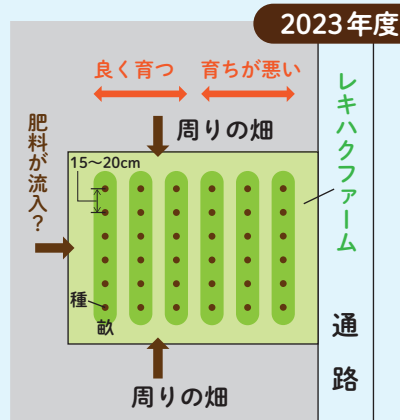
例年の傾向でもあり、うすうす気づいてはいましたが、土が固く踏みしめられた手前の通路側は周囲の畑からの肥料の流入が届きにくいのではないかと考えています。寒起こしでは手前と奥と、土を入れ替え、今後も施肥の量を変えていきたいと思いますが、果たしてどうなるのでしょうか？

5月27日には、その検証にむけて、手前と奥の成長を確認しやすくするため、ことしはタテではなくヨコに3列、畝（うね）をつくりました。また、種をまく間隔（株間）も通常の15～20センチではなく、あえて10センチと狭くすることにして、畑の中のどのあたりから成長に差が出てくるのかを確認しやすくすることにしました。

本来は4月から5月にかけてが陸稲の種まきのシーズンですが、ちょっと土づくりに時間をかけたこともあり本年は6月3日と少し遅めとなりました。（主に担当のスケジュールの都合ですが…）しかも、種まきの前日に大雨が降り、せっかく作って準備していた畝の一部が崩れてしまい（しかも検証したい通路側）、発芽や成長に影響が出てこなければいいのですが、気になるところです。

（文 羽田智幸）

[X (旧 twitter)] https://twitter.com/rekihaku_farm
横浜市歴史博物館レキハクファーム通信 (@rekihaku_farm)
で日々の活動の様子をつぶやいています！



6/3
3畝に10cm間隔で
種まき



DIARY

植えたもの 陸稲「農林24号」

4月28日 除草・耕起・施肥

5月27日 施肥・畝たて

6月3日 畝の補修・種まき
(34株×3畝=102株)

6月17日 発芽の確認

6月24日 畝の作り直しと追加の種まき

7月1日 除草

7月8日 除草・水やり

7月20日 除草・水やり

7月22日 除草・水やり

4/28
右側の通路側と左の
奥側の土を入れ替え

7/20
追加の種まきもあり、
持ち直した状況



大塚・歳勝土遺跡公園だより

大塚・歳勝土遺跡公園では日々、地域や考古学に関係した活動やイベントを行っています。

令和6年度上半期は、やはり歴史未来フェスでマルシェを開催できたことが大きいでしょう。

マルシェ開催中、弥生時代と古墳時代の炊飯方法でご飯をつくり、試食会を実施したところ、あっという間に100名近くの方が集まり、食べ比べを楽しんでいただきました。

また、企画展「君も今日から考古学者！—横浜発掘物語 2024—」の関連企画で「大昔のくらしにせまる」と題し

①竪穴住居を直してみよう—かやぶき屋根プロジェクト—

②たたら製鉄実験

を実施しました。

例年実施しているかやぶき屋根プロジェクトに加えて、たたら製鉄実験では、古代の製鉄炉を現代の資材で再現し砂鉄から鉄を作り上げる工程を再現しました。

製鉄炉の内部は1,000℃を超えるため大変な熱気の中、多くの見学者に囲まれながら、20kgの砂鉄から3kg程度の鉄を作ることができました。

大昔のくらしにかかわる様々な体験やイベントを実施することで多くの人に考古学の面白さ、楽しさを知っていただきたいと思います。

活動にあたっては都度当館HPで周知をしていますので、ご確認をお願い申し上げます。（文 橋口豊）



かやぶき屋根プロジェクト



たたら製鉄



砂鉄



完成した鉄

しみをもったものでした。また、私と同じく古代史を専攻する当時の学芸スタッフの方々、前沢和之さんや平野卓治さんとも、しばしば交流が



ありました。多くの大学にまたがる私たちが在野の研究会「あたらしい古代史の会」のシンポジウム「古代東国の石文」を共催していただいたことも、なつかしい思い出です。

ただ三十年たつと、大きく社会情勢・周辺環境や歴史学の潮流も変わってきます。開館当初の、新しい展示構成などに最も苦労した世代の職員の方も段々とリタイアしてきますし、開館時の常設展示も本格的にリニューアルしたいという希望も生じてきます。さらに、コロナ禍あけという時代を迎え、すべての博物館がかかえる課題も共通に抱えて、横浜市歴史博物館も、厳しい状況下で新しい展開をめざさなくてはならなくなっています。

これまで当館を力強く支えて下さってききました横浜歴史博もりあげ隊や横浜さいかちの会などの関連団体やボランティアの方々、そして様々な形でご支援いただいたきた多くの団体・企業などの皆様の大きなご協力によって、これからは横浜市歴史博物館の新展開をめざしていきたい



開館当初の館内ようす

と思っております。どうぞよろしくお力添えいただきますよう、心からお願い申し上げます。

館長コラム vol.6

横浜市歴史博物館の来し方・将来

館長 佐藤 信



横浜市歴史博物館の館長となつて、三年がたちました。古代から近代にわたり新しい知識や文物を積極的に受容してきた横浜三万年の歴史・文化に関する「知」を市民の皆様と共有することをめざし、調査・研究とともに展示・発信に努めたいという抱負をお話したことが昨日のようです。まだ振り返るのには短か過ぎる時期かもしれませんが、私にとって、三年は一つの節目でもあります。

人の一生の中でも、入学・進学・卒業・成人・就職・転職・退職・還暦・古希などの節目ごとに、これまでを振り返りこれからの設計する機会とすることは、漫然と時に流されてしまうことを防ぐためにも、意味のあることだと思います。

今回の当館の企画展「サムライ Meets ペリー With 黒船」も、ペリーの横浜来航一七〇年を記念しています。開港資料館の企画展とも連



携した魅力的な展示となっています。これも、〇周年・〇周忌・生誕〇年・没後〇年記念などという節目にあたって、改めて歴史を見直し将来を見据えようという意味をもってあります。ペリー来航によって、小さな横浜村が日本と世界との接点として歴史上の表舞台に飛び出し、日本の近代を切りひらく上で大きな役割を果たし、さらにその後世界に開かれた都市として発展してきたことを振り返る上で、良い機会になるでしょう。

ところで、横浜市歴史博物館は、来年で開館三十周年を迎えることとなります。「十年ひと昔」という言葉があるように、三十年は大きな画期でもあるといえます。私も、横浜市歴史博物館創設の頃に、平野邦雄初代館長から新しい博物館がめざすところと熱い思いを色々とお聞きし、また自分が発掘に参加した大塚・歳勝土遺跡と一体で創られる博物館に大いに期待と親

はらでぐちくん といっしょ

ぬいぐるみキーホルダー



【価格】1個 1,100円(税込)
※オンラインショップの場合は別途送料がかかります。
【サイズ】高さ12cm×幅6cm(顔の幅)×
奥行(顎から後頭部突起まで)6.5cm
【主素材】ポリエステル等
【色】本体：明茶色 刺繍：濃茶色



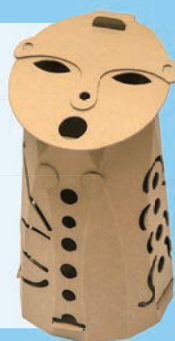
オンラインショップはこちらから▶



ボールチェーン付。
バックやリュック
につけて
お出かけの時も
連れて行って
あげてください。

はらでぐちくんには、横浜市歴史博物館オリジナル工作キットのペーパークラフトタイプもあります。作り方の説明書付き。ぜひ、ぬいぐるみキーホルダーと合わせてお買い求めください。

【難易度】☆☆☆☆ 【使う道具】のり
【標準制作時間】10分～
【完成品サイズ目安】胴回り最大29cm 高さ17cm
【価格】800円(税込)
※オンラインショップの場合は別途送料がかかります。



国内外で
お仕事中♪

中山家資料整理中です

世界の車窓から
～北米編～
デラウェア川にて

ホノルルの
ピンショップ博物館前

フィラデルフィア

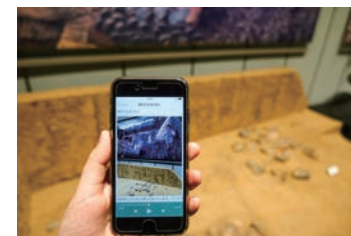
ニューヨーク

歴博を“もっと”楽しもう！

「横浜市歴史博物館公式解説アプリ」をご存じですか？

博物館全体の施設案内や、常設展示室に展示されている歴史資料について解説を聞くことができるガイドアプリです（日本語、英語、中国語繁体字・簡体字、韓国語、ドイツ語対応）。

横浜市歴史博物館2階の円形の常設展示室では、約3万年前の原始から近現代までの時代ごとに横浜の歴史をたどることができます。解説アプリをお手持ちのスマートフォン・タブレットにインストールすることで、音声解説や解説映像を通して常設展示をより楽しむことができます（iOS、Androidに対応しています）。



アプリの
ダウンロード、
利用方法は
こちらから▶



イベントたくさん！

ラストサタデープログラム

月の最終土曜日に開催するイベントです。土曜日は小・中・高校生は入場無料！暑い日も、雨の日も、博物館のなかでたのしく学びませんか？

れきし工房

歴史をたのしく学びながら、オリジナル作品をつくるプログラムです。



まがたま作り（かっ石）
滑らかな手触りのやわらかい石を使って、昔のひとも作った“まがたま”制作に挑戦できます。（所要時間：60～90分程度）



あじろ編み（小物入れ）
縄文時代の遺跡からも見つっている「網代編み」という編み方で、小物入れをつくります。（所要時間：90～120分程度）

各プログラムの開催日時等
詳細はこちら▶



おもしろいぞ！紙芝居

街頭紙芝居の実演
を見てたのしむこと
のできるプロ
グラムです。



学芸員連続講座

「横浜の文化財」をテーマに当館館長・学芸員が講師としてお話しします。この講座に参加すれば、横浜のことが丸わかり！

【下半期講座内容】

- 9/22(日)「昔話は文化財になるのか？—民話から見る妖怪—」講師 小林光一郎(民俗担当)
- 10/20(日)「横浜の神代神楽(じんだいかぐら)—近世、近代、そして現在—」講師 小林紀子(近世担当)
- 11/24(日)「近世横浜の領主と文化財—おらが村のお殿様を探る—」講師 仲泉剛(近世担当)
- 12/22(日)「仏像の修理—横浜市指定文化財・向導寺阿彌陀如来坐像を例に—」講師 花澤明優美(美術担当)
- 1/18(土)「戦国・海の覇権争い—横浜市指定文化財・「里見梅王丸朱印状」を読む—」講師 阿諏訪青美(中世担当)
- 2/15(土)「絵画の文化財修理—笠木治郎吉の作品を例に—」講師 吉井大門(美術担当)
- 3/15(土)「横浜の文化財—史跡を巡って—」講師 佐藤信(当館館長・古代史研究者)



お申込みは
こちらから

横浜市歴史博物館は、令和7年1月31日に開館30周年を迎えます。

展覧会

- 企画展「ペリー横浜上陸170年
サムライ Meets ペリー With 黒船
―海を守った武士たち―」
令和6年7月13日(土)～9月1日(日)
- 特別展「寶林寺 東輝庵展 横浜の禅―近世禅林のルーツ―」
令和6年9月14日(土)～11月10日(日)
- 青葉区都筑区区制30周年記念展示
「丘のよこはま―歴史と暮らしの30年―」
令和6年11月23日(土)～12月15日(日)
- 企画展「かながわの遺跡展」
令和6年12月24日(火)～令和7年1月26日(日)
- 「令和6年度 横浜市指定・登録文化財展」／
企画展「仏像入門展」
令和7年2月8日(土)～3月16日(日)

令和7年度は、開館
30周年記念特別展を
開催予定です。



関連イベントや
その他ワークショップ等の
開催については、
当館ホームページ、
X(旧twitter)にて随時
お知らせしていきます！



横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

9:00～17:00(券売は16:30まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生 横浜市内在住65歳以上	100円	80円

■企画展・特別展の観覧料は別に定めます。

■毎週土曜日、小・中・高校生は無料です。

■横浜市内在住の65歳以上の方は「濱ともカード」など証明
できるものをご提示ください。

■「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」[精神障害者保健
福祉手帳]をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に
手帳または、スマートフォンアプリ「ミライロID」の手
帳画面をご提示ください。

■補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)とご一緒に入館できます。

会期・開催時間等の予定を変更する場合があります。最新
情報は出かけ前に、当館ホームページまたはお電話にて
ご確認ください。

●交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
駐車場あり(30分100円)



横浜市歴史博物館

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1

Tel.045-912-7777(代表) Fax.045-912-7781

<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

X(旧twitter) @yokorekihaku

横浜市歴史博物館ニュースNo.57 2024年8月31日発行

編集・発行 横浜市歴史博物館

デザイン 株式会社フィールド・ノート、柳原梢子(やなぎ堂)